

<福島県教育長賞>

東日本台風振返る税金の大切さ

本宮市立本宮第二中学校 三年 七見 悠斗

令和元年十月十二日に日本に上陸した台風十九号は、静岡県、関東地方、甲信越地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。私の住む本宮市は、台風十九号の豪雨により市内阿武隈川の水位が上昇し、安達太良川の水が押し戻され堤防が決壊し、市街地の大部分が浸水、七名が亡くなりました。

当時、僕は小学六年生でした。夜、凄い雨で、本宮市の防災ラジオが鳴りやまず、なかなか寝る事が出来なかったのを今でも覚えています。翌朝、数枚の写真が母の知り合いからラインで送られて来ました。その写真には市内のスーパーマーケットと、チェーン店のお寿司屋さんの屋根まで、水に浸かったとても衝撃的な写真でした。僕は、小学生ながらに居てもたってもいられませんでした。

大雨から二日ほどして水が引いた時の事です。スポ少でお世話になっている先生の家が被災したということを知り、何かお手伝いできないかと、お家に伺いました。すると、畳は水で浮かび上がりタンスは倒れ、とても住める状況ではありませんでした。その時、先生が、

「自衛隊のヘリコプターに救助された。」

と話をしてくれました。

自衛隊は、国家公務員であり税金である防衛費から給料が出ています。防衛費の増額と聞くと世間一般では、あまり良い印象はありません。しかし、自衛隊は国防ばかりではなく、昨今の災害の様な緊急時の助けにもなっていることが分かりました。また、河川の復旧・復興にも税金が使われています。これらの税金が無ければヘリコプターで人を助けることもできず、二次災害やさらなる死者が出ていたと考えるとぞっとしました。税金によって私たちの生活が守られていると、考えさせられました。普段納めている税金が国を助け人を助ける事につながると感じました。

国民の義務には、教育の義務、勤労の義務、納税の義務があります。私が大人になったら、しっかりと税金を納められる社会人になりたいです。